

〈座談会〉

選挙戦を語る

去る八月三〇日に第四五回衆議院議員総選挙がおこなわれた。今回、我が大学院の卒業生であるA氏が総選挙に立候補したため、A氏と個人的に交際のあった院生数名がスタッフとして応援に駆けつけた。はたして候補者と選挙スタッフらがみた「選挙」とは？

司会…本日はお集まりいただき、ありがとうございます。早速Aさんに、政治家を志します。た理由を、他の皆さんにAさんの選挙を手伝おうと思った理由をお聞きしたいと思えます。

A…なぜ政治家を目指したのかと言うと、「世直し」ですね。国内的な課題、あるいは外交上の課題等大学や大学院で学んだことを生かして政治家として日本を変えていきたいと思い、政治家を志しました。

甲…僕は選挙活動が実際どのようなものか、その一端を見てみたいと思いい選挙を手伝

いました。いわゆる草の根、どぶ板選挙に興味があったからです。

乙…僕は地盤・看板・かばんのない選挙を戦うというAさんの理念に共感したからです。

司会…ありがとうございます。それではAさんと他の皆さんに、準備期間が短い中で地盤・看板・かばんのない選挙を戦って見た感想やその手法や苦勞についてお聞きしたいと思います。

A…やはり、家族・知り合いが誰一人いない状態からスタートすることの難しさを痛感しました。圧倒的に知名度が低く、時間も無い状態で目標票数を得るためには、まずそれだけの人に会って名前を覚えてもらわなければならないのでとても大変でした。手法としては、公認で選挙を戦うオーソドックスな形ですが、選挙区内にある党の支部の方々に協力をお願いして、それぞれの支部長さん、大体は市会議員や県会議員を兼ねているのですが、そういった方々に友好団体や企業への集会やあいさつ回りに連れて行ってもらうという活動をしていました。

乙…特に地盤との関係で、よく「なぜこの選

挙区から出馬するのか」という問いかけがありました。納得してもらえない形で説明をしなければならぬ点で、地縁のある候補者とは違った苦勞があったかなと思います。

丙…かばんの話が出ていないので、お金の話を。今回、お金がないためにできなかったことがたくさんあると思います。Aさんに聞きたいのですが、今回の選挙、もし自由にお金が使えたら、どのようなことをしましたか？

A…そうですね、例えば事務所をもっとたくさん、しかも地理的条件の良いところに借りたかったのですが、できませんでした。さらに言えば、ポスターやリーフレットの類ももっと作りたかったです。

司会…事務所の数や場所というのは重要なのですか？どういう違いが出てくるのですか？

乙…大事だと思います。まず選挙区内には多くの支部がありますが、本部事務所と支部の間に車で三〇分から一時間の距離があり、移動が大変です。それぞれの支部をまとめる形で交通の便の良いところに、しかも目立つ形で事務所を置くと、本部との連絡を密にできるし、PRにもなる。

例えば選挙関連の配布物がたくさんあるのですが、全支部に配布して回ると丸一日つぶれてしまう。本部と各支部との中継地点のような形で事務所を置くことができる、かなりの時間短縮になり効率的な活動ができます。他には。例えば車の台数。もつと車があればもつと精力的に選挙区内を回れたと思います。

司会…なるほど、ありがとうございます。おそらく相当に忙しかったと思うのですが、新人の候補者という苦労もあつたのではないですか？

A…選挙で新人といえば、世襲か地方議員出身が多いです。そういった人はすでにある程度の地盤があり、選挙のノウハウも分かっている。そういうところでも苦労がありました。

甲…新人の候補者ということで、事務所の運営ノウハウが全くゼロからのスタートという点が一番大変だったと思います。初期の事務所では、例えばスタッフの働き方が決まっていなかったし、名簿を作成するツールもありませんでした。

丁…やはり、現職の候補者に比べて新人はとも不利だと思いました。何をするに

ても県会議員や市会議員の方々の力が必要で、そういった苦労もあつたと思います。

司会…それでは皆さんに、実際に選挙戦を戦ってみてイメージしていた時と実際やってみた時の違いがあればお聞かせください。

乙…政治の世界とマスコミとの関係に少し驚きました。両者の関係はばかし合いというか、つかず離れずの関係だと思つたのですが、思つていたよりずっと親密な関係で深い付き合いのように思えました。

甲…思つていたよりもずっと、若い人の関心が高いことに気が付きました。マニフェストを読んでいる子がいましたし、若い人でも今の社会に閉そく感を感じている人は多いようです。私見では、若い子でも男性より女性の方が考えている感じはしました(笑)

丙…イメージよりずっと、意識の高い人はたくさんいると思えました。毎日畑を耕しているおじさんたちが、各政党の政策に驚くほど精通していたりする。

乙…しかも、そういう人たちがほど若い人が頑

張らないといけないと相当に危機感を持つている方が多いと思いました。

司会…それではAさん、実際の選挙戦を戦ってみて現在の選挙制度について何か感じることはありましたか？

A…よりお金がある方が当選するといった旧来型の選挙はもうやめましょう。具体的には選挙は完全に公費で行い、私財を投げ打たなくても良いシステムを構築すべきです。旧来型という意味では家族を巻き込むような選挙戦はやめるべきです。家族に仕事を休んでまで来てもらつて、集会等で頭を下げてもらう、土下座をする、そういう戦い方は良くないと思えます。公募制度ももつと活用されるべきでしょう。若い人が立候補できるようなシステムを作り、世襲も制限すべきです。

司会…ありがとうございます。最後に、公共空間の読者である学生にメッセージをお願いします。

A…夢を持ってほしい。夢を持ち、捨てないで追い続けてほしい、それだけです。

司会…ありがとうございます。